

第2四半期決算説明資料 (2016年度)

2016年11月30日



2016年度 第2四半期 決算概要

2016年度 第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府や日本銀行の各種政策の効果等により、企業収益や雇用環境に改善が見られ、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、新興国の経済減速懸念や英国のEU離脱問題など、海外経済の動向に関する不確実性もあり、景気の先行きは依然として不透明感を残しております。
- このような事業環境の中、原子力発電所からの受注は前第2四半期累計期間の水準を下回りましたが、主要顧客である製造業からの受注が堅調な水準を維持したこと等もあり、呼吸用保護具全般の受注は、ほぼ前第2四半期累計期間並みの水準で推移しました。この結果、売上高は、前第2四半期累計期間比で微増の45億7百万円となりました。
- 一方、利益面では、引き続き生産効率の維持・向上に取り組みましたが、年度後半以降を見据えた製品供給体制の整備・強化に伴う人件費、諸経費増により、売上高に対する売上原価率は前第2四半期累計期間比で6ポイント以上悪化しました。この結果、売上総利益は前第2四半期累計期間比16.4%減の13億73百万円となりました。
- また、販売費及び一般管理費については、期初から研究開発活動の強化や積極的な拡販活動の推進に伴う人件費、諸経費増が避けられず、前第2四半期累計期間比6.1%増の14億66百万円となりました。
- 以上の結果、営業損失92百万円（前第2四半期累計期間は営業利益2億61百万円）、経常損失87百万円（前第2四半期累計期間は経常利益2億49百万円）、四半期純損失69百万円（前第2四半期累計期間は四半期純利益1億2百万円）となりました。

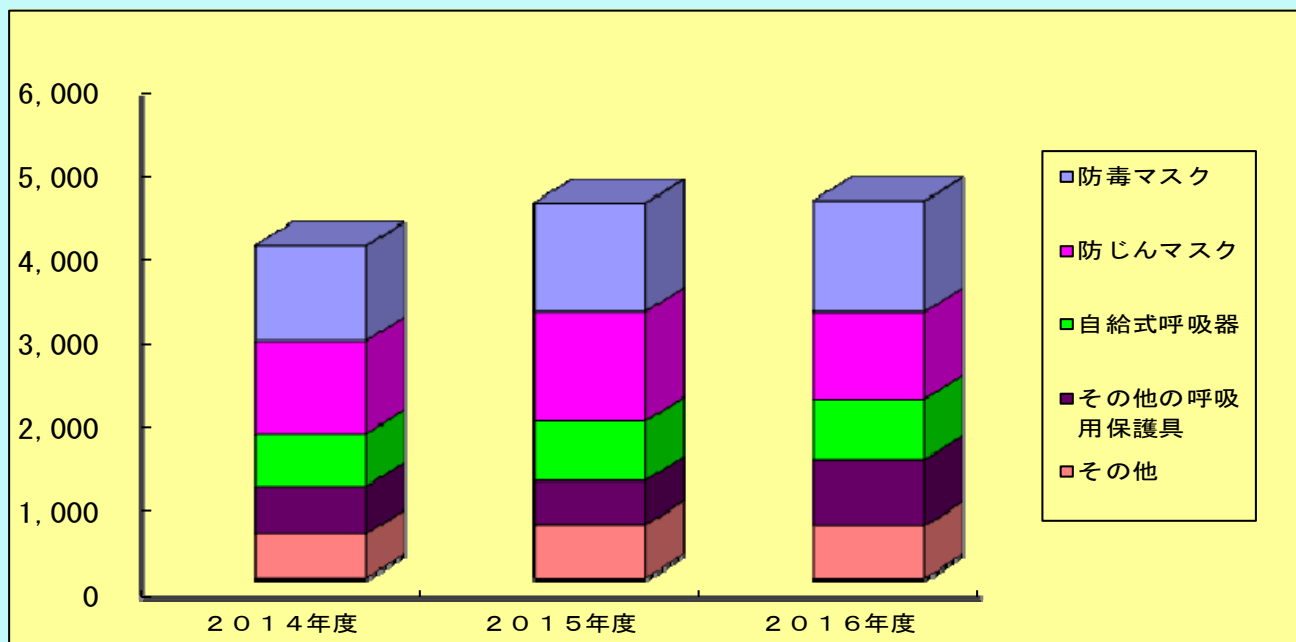
2016年度第2四半期累計期間 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	15年度第2四半期	16年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	4,480.3	4,506.6	26.4	原子力発電所からの受注は減少したものの、主要顧客の製造業からの受注は堅調だったことから、売上高は前年同期間比で微増となりました。
製品製造原価	1,938.8	2,259.2	320.3	前年同期間比では、製品製造原価は3億20百万円増加、一方、商品原価は25百万円減少し、売上原価全体では2億96百万円増加しました。この結果、売上総利益は2億69百万円減少し、売上高総利益率は6.2ポイント悪化しました。
商品原価	898.5	874.0	△ 24.5	
売上原価	2,837.4	3,133.2	295.8	
売上総利益	1,642.9	1,373.5	△ 269.4	
販売費及び一般管理費	1,382.1	1,465.7	83.6	期初から研究開発活動の強化及び積極的な拡販活動の推進に伴い、販売費及び一般管理費は、前年同期間比で84百万円増加しました。
営業利益	260.8	△ 92.3	△ 353.1	
営業外収益	21.5	31.4	10.0	前年同期間比で、営業外収益は10百万円増加、営業外費用は7百万円減少した結果、営業外収益・費用の収支差は改善されました。
営業外費用	33.4	26.5	△ 6.9	
経常利益	248.9	△ 87.3	△ 336.2	
特別損失	96.3	6.8	△ 89.5	前年同期間に計上した製品自主回収関連費用に該当する費用計上はありません。
税引前四半期純利益	152.6	△ 94.1	△ 246.7	
法人税、住民税及び事業税	12.7	3.3	△ 9.4	以上の結果、四半期純損失69百万円となり、前年同期間比では減益決算となりました。
法人税等調整額	38.2	△ 28.3	△ 66.5	
四半期純利益	101.7	△ 69.1	△ 170.8	

第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

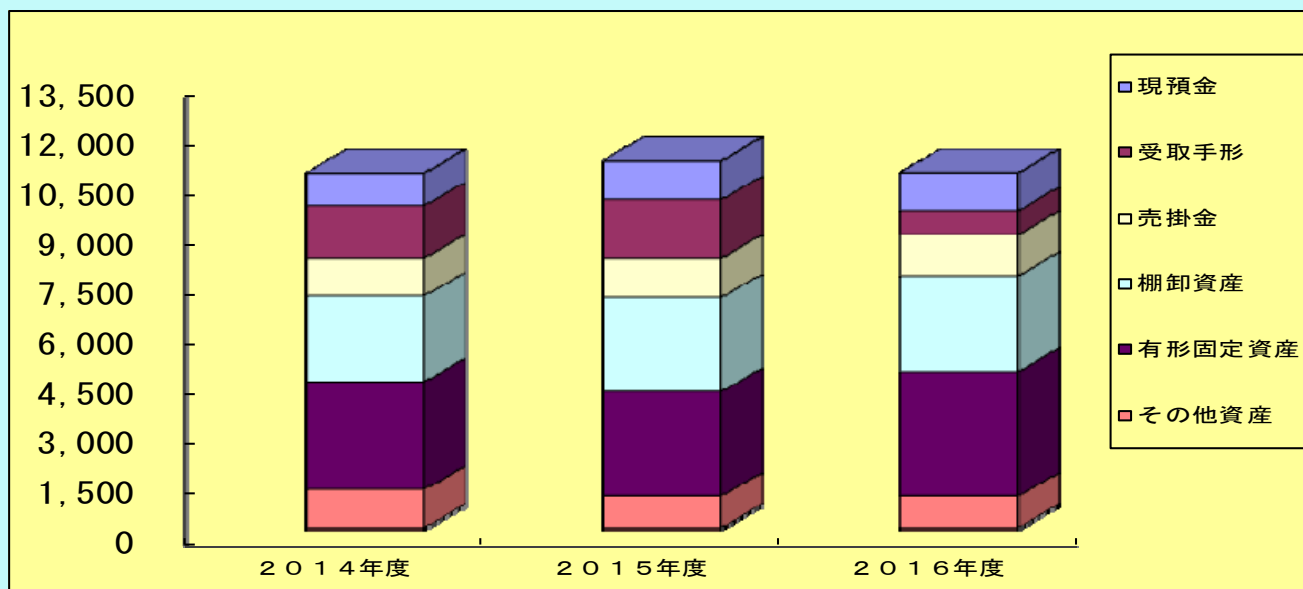
	2014年度	2015年度	2016年度
防毒マスク	1,133.5	1,298.0	1,325.0
防じんマスク	1,108.0	1,306.9	1,041.0
自給式呼吸器	628.9	708.1	720.8
その他の呼吸用保護具	568.6	530.3	790.9
その他	528.0	636.9	629.0
合計	3,967.1	4,480.3	4,506.6

当第2四半期累計期間の特徴

- ① 当第2四半期累計期間の売上高は、原子力発電所からの受注が減少したものの、製造業からの堅調な受注により、前年同期間比では26百万円の微増となりました。
- ② 防毒マスクは、前年同期間比で27百万円、率にして2.1%の増加となりました。
- ③ 防じんマスクは、前年同期間比で2億66百万円の減少、自給式呼吸器は13百万円の増加となりました。また、その他の呼吸用保護具等の合計は、電動ファン付き呼吸用保護具を中心に約2億50百万円の増加となりました。

第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2014年度	2015年度	2016年度
現預金	983.5	1,160.6	1,145.3
受取手形	1,582.1	1,769.7	706.5
売掛金	1,129.5	1,172.3	1,245.9
棚卸資産	2,582.4	2,834.0	2,883.9
有形固定資産	3,244.5	3,145.0	3,748.1
その他資産	1,147.9	949.1	947.2
合計	10,669.9	11,030.7	10,676.9

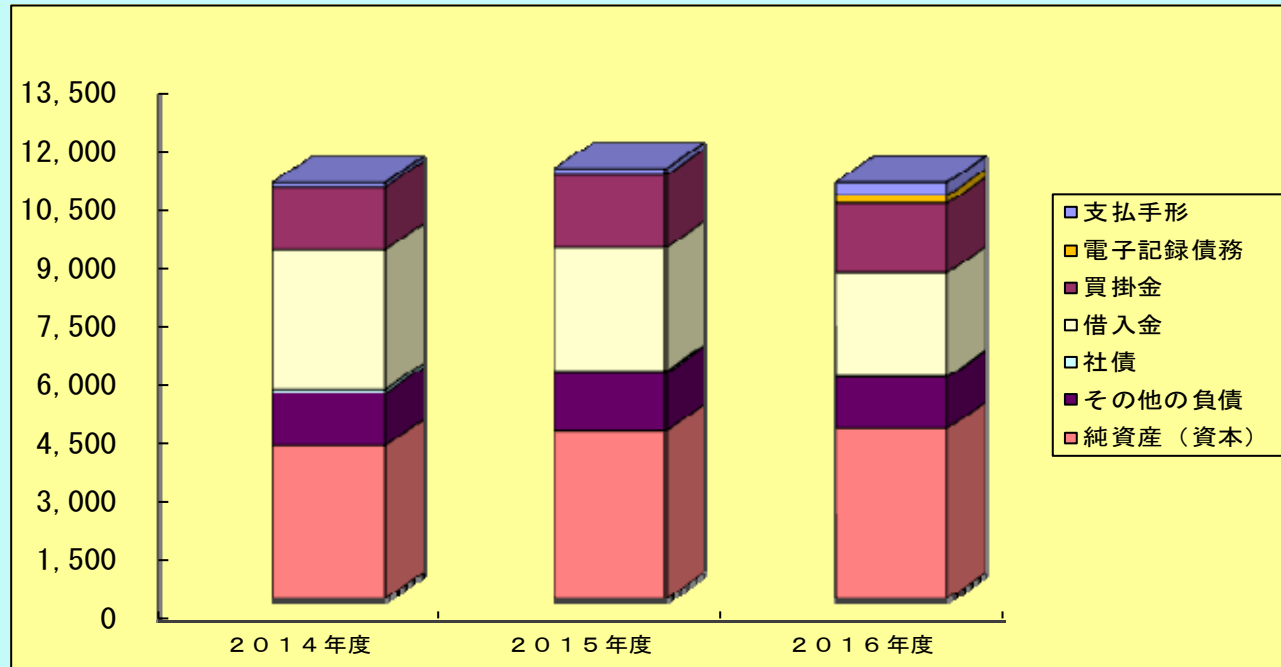
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では15百万円減少していますが、これは通常の変動範囲内にあるものです。
- ② 割引手形による資金調達を積極的に進めたことから、売上債権（受取手形＋売掛金）は、前第2四半期末比で9億90百万円の大幅な減少となりました。
- ③ 棚卸資産は、年度後半以降の受注に備えて積み増して来ており、前第2四半期末比では50百万円の増加となっております。
- ④ 積極的な新製品開発に伴う設備投資増により、有形固定資産は、前第2四半期末比では約6億円の増加となっております。
- ⑤ その他資産については、前第2四半期末並みとなっております。

第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

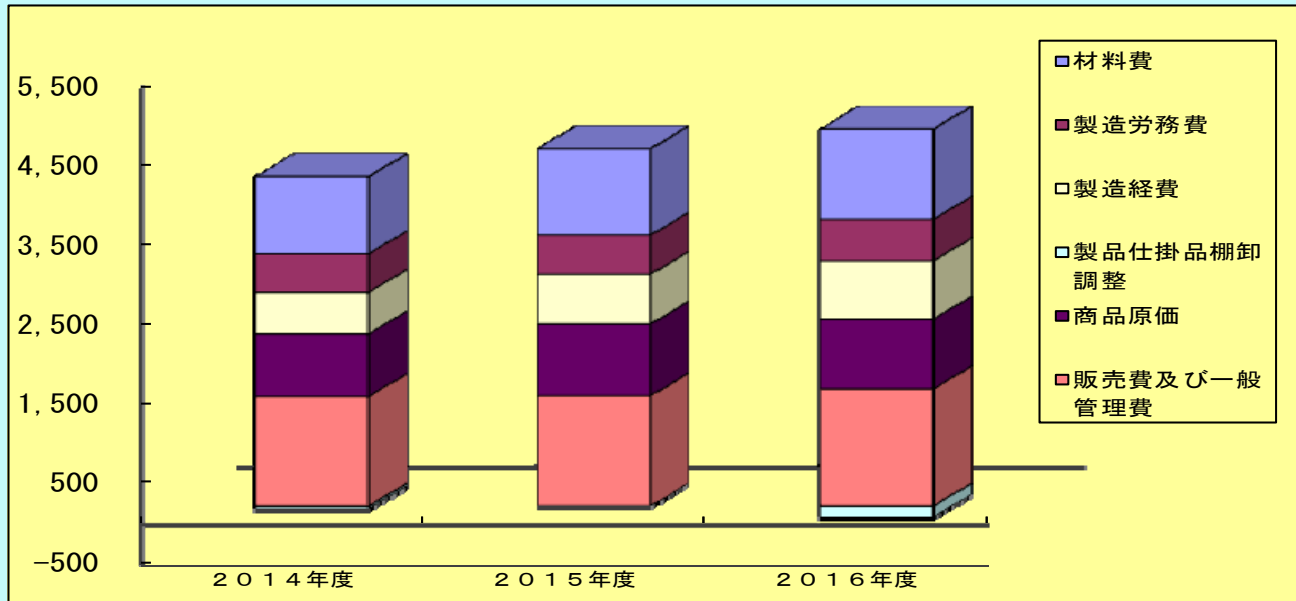
	2014年度	2015年度	2016年度
支払手形	109.1	165.9	321.9
電子記録債務	-	-	207.5
買掛金	1,608.6	1,852.1	1,778.0
借入金	3,573.7	3,168.0	2,667.3
社債	100.0	60.0	20.0
その他の負債	1,345.8	1,460.5	1,297.4
純資産(資本)	3,932.8	4,324.2	4,384.7
合計	10,669.9	11,030.7	10,676.9

当第2四半期末の特徴

- ① 年度後半以降の受注に備えるため、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前第2四半期末比で2億89百万円の増加となっております。
- ② 金利負担軽減のため、割引手形による運転資金調達を進めた結果、借入金及び社債の合計残高は、前第2四半期末比では5億41百万円減少しております。
- ③ 純資産が増加する一方、借入金及びその他の負債の減少等を主因として負債合計が減少した結果、自己資本比率は当第2四半期末で41.1%となり、前第2四半期末比で約2ポイント改善しています。

第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2014年度	2015年度	2016年度
材料費	964.7	1,080.3	1,129.2
製造労務費	483.0	490.2	520.1
製造経費	541.1	642.8	750.3
製品仕掛品棚卸調整	△ 36.9	△ 274.5	△ 140.4
商品原価	783.4	898.5	874.0
販売費及び一般管理費	1,371.8	1,382.1	1,465.7
合計	4,107.1	4,219.5	4,598.9

当第2四半期累計期間の特徴

① 材料費は、年度後半以降の受注に備えるための製品在庫積み増しにより、前年同期間比で49百万円増加しました。この結果、製品売上高に占める比率は34.1%と、前年同期間比では1.4ポイント上回る水準となりました。

製造労務費は、前年同期間比で30百万円増加し、製品売上高に占める比率は、前年同期間比で約1ポイント悪化しました。

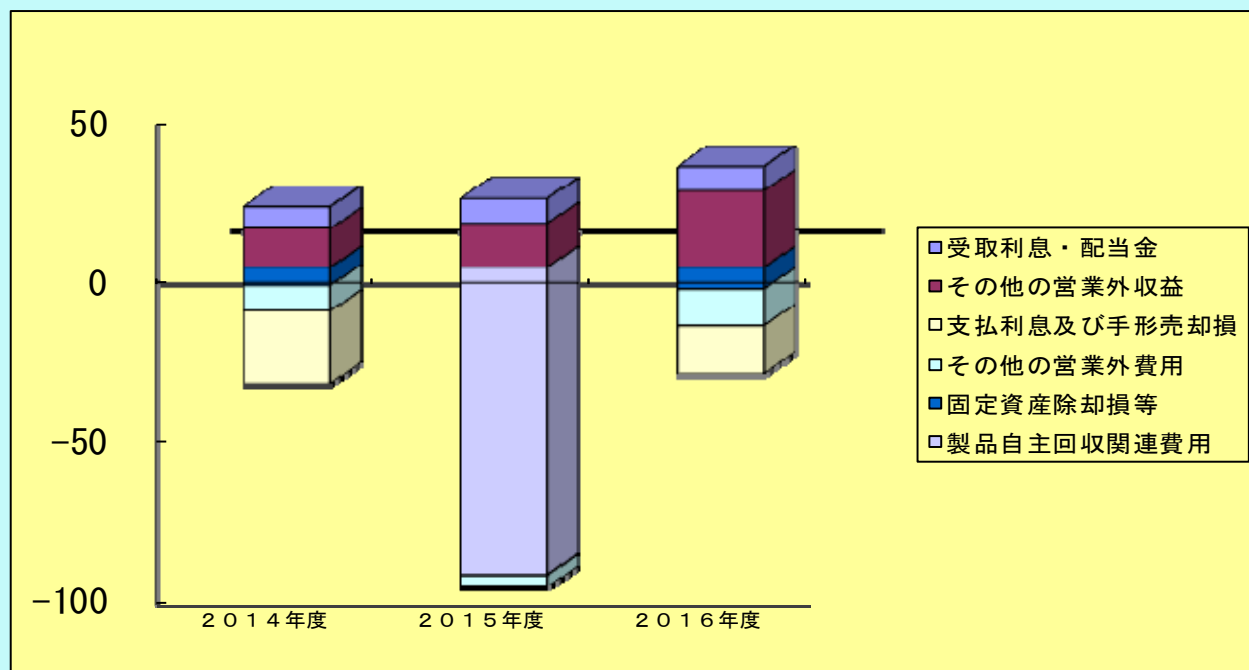
製造経費は、前年同期間比で1億7百万円の増加となり、製品売上高に占める比率は前年同期間比で約3ポイント悪化しました。

② 商品原価については、効率的な仕入に努めた結果、商品売上高に対する比率は73.3%と、前年同期間比で約3ポイント改善しました。

③ 販売費及び一般管理費については、期初から研究開発活動の強化及び積極的な拡販活動の推進に伴う人件費、諸経費増が避けられず、前年同期間比では84百万円増加しました。

第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、受取ロイヤリティーが3百万円増加したことに加え、為替差益を8百万円計上したこともあり、全体では前年同期間比で10百万円増加しました。
- ② 営業外費用は、手形売却損が3百万円、売上割引が3百万円増加する一方、借入金・社債残高の圧縮により、支払利息が4百万円、為替差損が8百万円減少したため、全体では前年同期間比で7百万円減少しました。
- ③ 特別利益に計上すべきものは、前年同期間と同様にありません。
- ④ 前年度に特別損失に計上した製品自主回収関連費用については、回収対応が前年度中に完了しているため、当第2四半期累計期間で該当する費用計上はありません。

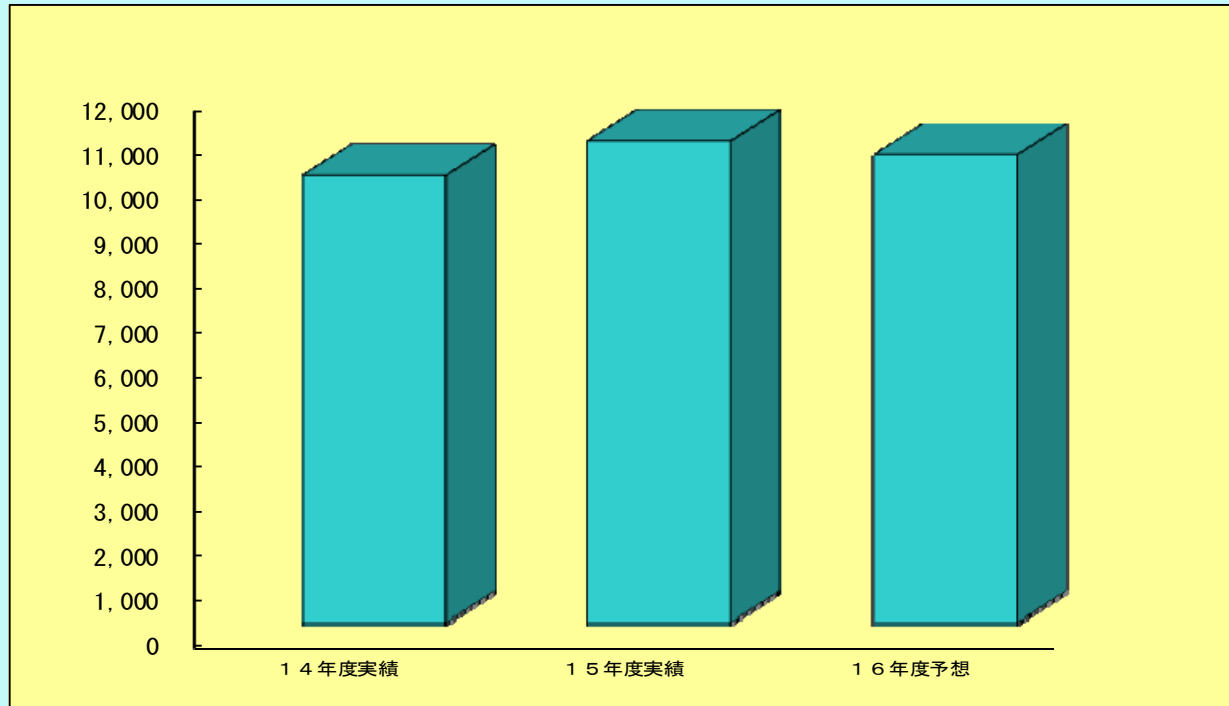
単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

		2014年度	2015年度	2016年度
営業外損益	受取利息・配当金	6.8	7.7	7.5
	その他の営業外収益	12.1	13.7	23.9
	支払利息及び手形売却損	△ 22.7	△ 16.8	△ 15.1
	その他の営業外費用	△ 7.9	△ 16.6	△ 11.4
	営業外損益合計	△ 11.7	△ 11.9	5.0
特別損益	固定資産除却損等	△ 5.7	△ 0.2	△ 6.8
	製品自主回収関連費用	-	△ 96.1	-
	特別損益合計	△ 5.7	△ 96.3	△ 6.8

2016年度 通期業績予想

2016年度 通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	14年度実績	15年度実績	16年度予想
通 期	10,034	10,809	10,500

状 況 と 見 通 し

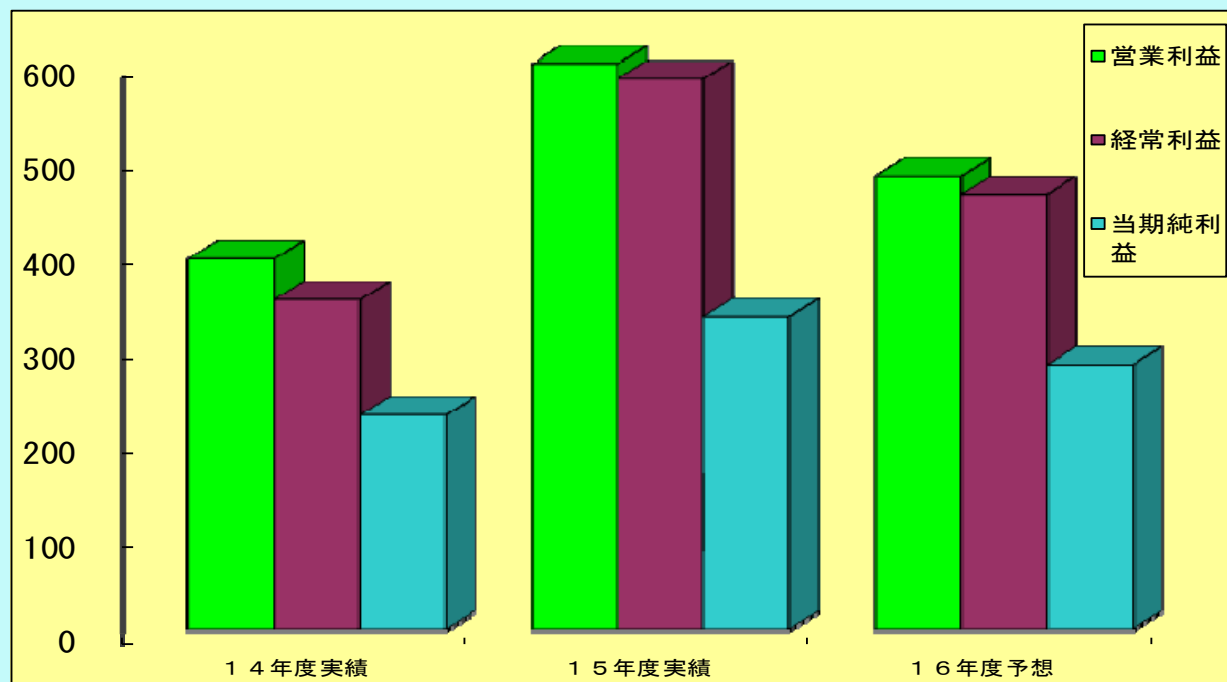
当第2四半期累計期間の売上高は、原子力発電所向け製品の受注は前年同期間の水準を下回りましたが、主要顧客である製造業からの受注が堅調だったこと等により、本年5月に公表した業績予想に比し、2億7百万円の増収となりました。

通期の売上高予想値につきましては、上記の実績を踏まえ、当事業年度後半の事業環境や受注動向等を見通しますと、現時点では、本年5月に公表した105億円から大きく乖離はしないものと見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。

2016年度 通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	14年度実績	15年度実績	16年度予想
営業利益	391.9	599.1	480.0
経常利益	348.6	583.1	460.0
当期純利益	227.0	330.9	280.0

状況と見通し

当社における年間売上高の構成は、前事業年度実績で見ますと、上半期 44.8 億円、下半期 63.3 億円となっていることからわかるとおり、恒常的に下半期、特に第4四半期に偏重しております。

当第2四半期累計期間の利益実績は、年度後半以降の製品供給体制の強化や新製品拡販活動の推進等に伴う費用先行もあり、本年5月公表の利益予想を下回りましたが、引き続き第3四半期以降も製・商品ともに積極的な拡販活動に注力してまいります。以上のことから、現時点では、本年5月に公表しました通期の利益予想値につきましても修正は行いません。今後、修正が必要になった場合には、速やかに発表を行ってまいります。